

令和5年度 公益社団法人 日本ホッケー協会 事業報告





目次

令和5年度 総括	p 03
令和5年度 組織図	p 04
戦略統括本部	p 05
強化育成本部	p 06
事業本部	p 10
コーポレート本部	p 12
常設委員会	p 13
事務局	p 16

令和5年度 総括

本年度は日本ホッケー協会設立100周年のメモリアルイヤーであった。100周年記念事業としてホッケー競技を活用して社会課題の解決や、まちづくりを進める市区町村を「公式ホッケータウン」に認定するとともに、これまでのホッケー競技の普及発展に尽力された方をホッケーパーソン・チームとして認定を行った。また、2024年2月には高円宮妃久子殿下をお迎えし「100周年記念式典」を開催し、次の100年に向け、今後ますます地域の皆様との連携を強くし、一丸となって競技の普及発展を進める取り組みを行った。

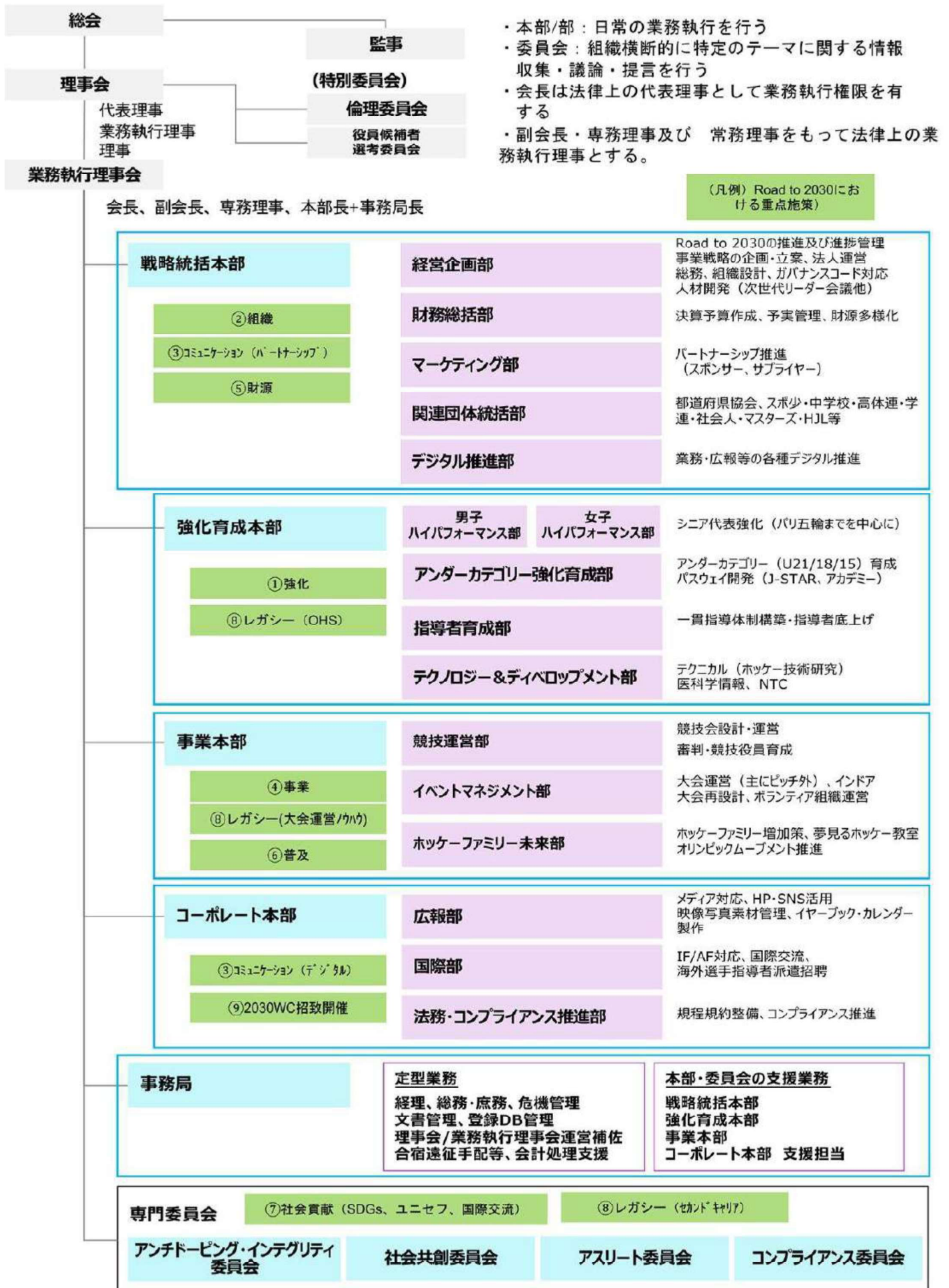
日本代表の男子サムライジャパンが2023年9月に行われたアジア競技大会（中国・杭州）にて銀メダルを獲得した。女子さくらジャパンは、2024年1月に行われたパリオリンピック最終予選（インド・ランチャー）の3位決定戦で地元インドに競り勝ち、6大会連続となるパリ2024大会への出場権を獲得した。代表チームの世界ランキングは男子16位、女子10位（2024年3月時点）となった。

9月にはカナダ代表（男子）とフランス代表（女子）を招聘して大井ホッケー競技場で“国際強化マッチ”を有観客で開催した。2日間で3,100名の来場者があり、またWeb配信（スポーツナビ）では計164万回の再生とホッケー競技の認知向上に資する大会となった。

また、本年度のアンダーカテゴリーの代表的なトピックスは女子U21のジュニアワールドカップ7位入賞である。コロナ禍で何度も大会中止や延期に見舞われながらも、地元岐阜で行われたアジア予選を突破。12月にチリで行われた本選では順位決定戦に進出。強豪国相手に善戦し日本のジュニアレベルの高さを世界にアピールできた。

東京2020オリンピック後、本年度より補助金の大幅な減少とスポンサー・協賛金の減少という環境下、事業毎の予算管理の厳格化に注力した。また、男女代表のパリ2024オリンピックの最終予選への参加資金捻出を主な目的として募金活動を行い、全国のホッケー関係者などから大きな協力を頂いたおかげで、期初予算対比で赤字額を削減した。





戦略統括本部

【総括】

- 令和5年はJHA創立100周年の節目の年であったため、次の100年に向けて財政基盤の強化と関係団体との連携の強化を進めた
- 財政再建が大きな課題となる中、事業毎の予算管理の厳格化に注力した。また、男女代表のパリ2024オリンピックの最終予選への参加資金捻出を主な目的として募金活動を行い、全国のホッケー関係者などから大きな協力を頂いたおかげで、パリ五輪最終予選出場費用を捻出し、かつ、期初予算対比赤字額を削減した
- JHA創立100周年記念式典を開催し、公式ホッケータウンとして認定した市区村や正会員関連団体、関係団体などとの交流を図った

	R5年度活動内容	結果
経営企画部	<ul style="list-style-type: none"> 公式ホッケータウン認定事業 各所におけるホッケータウンの認定式の実施と特別ビジュアルの贈呈 全国サーベイの実施 スポーツ庁の組織基盤強化事業の継続獲得・運用 	<ul style="list-style-type: none"> JHA100周年記念事業としてホッケータウン・パーソン・チームを募集した。認定されたホッケータウン各所と調整の上、認定式を順次実施 全国サーベイの実施の上、次年度以降整理の上データ活用していく 組織基盤強化事業の継続（3年目）
財務統括部	<ul style="list-style-type: none"> 経理・労務業務のIT化及びアウトソーシング化を実現し、予算と実績の管理と資金繰りの管理を徹底 JHA創立100周年記念寄附金募集にあたって必要な規程等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 中間決算を実施して実績の管理を強化 IT化とアウトソーシング化を推進 消費税のインボイス方式と電子帳簿保存法に対応 寄付金の募集をする上で必要な寄附金取扱規程、個人情報等保護に関する基本方針、個人情報等保護規程を制定
マーケティング部	<ul style="list-style-type: none"> 既存パートナーとのコミュニケーションの継続 新たなパートナーの獲得 マーケティング施策の実施パートナーの獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 国際強化マッチの開催をきっかけとしたスポンサー獲得の実現 JOCパートナーであるENEOSからの新規支援の獲得（夢見るホッケー教室およびジュニア世代へのユニフォーム提供事業） TOPPANとのパートナーリング
関連団体統括部	<ul style="list-style-type: none"> 加盟各団体との権限関係の整理、連携・協力体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> JHAと加盟各団体との間の加盟団体規程の新設、権限関係の整備、連携・協力体制の強化にあたり必要・有益な方策を検討した
デジタル推進部	<ul style="list-style-type: none"> 登録システム課題整理、改善検討 請求書発行におけるインボイス制度対応 事務局経費精算/WF、勤怠管理システム導入 	<ul style="list-style-type: none"> 既存登録システムの次年度変更対応 既存登録システムの課題整理と、次期登録システムの検討開始 システム導入による事務局業務の効率化実現（ジョブカン見積/請求書導入によるインボイス制度対応、ジョブカン勤怠管理、経費WF導入）

強化育成本部

【総括】

- 本年度は、9月のアジア競技大会でのパリ2024オリンピックの男女出場権獲得を目指してスタート。JOCからの補助金の大幅減額や、前年度の予算執行の影響により、全てのカテゴリでの事業が縮小となった。そのためアジア競技大会やパリ2024オリンピック最終予選等の重要な大会に向けての準備が希望通りとはならなかった
- その様な状況下、サムライジャパンがアジア競技大会にて銀メダルを獲得。また、さらには日本のパリ2024オリンピック出場権獲得は、日本人としての誇りを胸に戦ってくれた成果である
- 今後更なる環境悪化が予想される中でも、継続して世界トップレベルと戦うべく新しい強化システム構築を推進する



男子ハイパフォーマンス部

・ ランキング：16位
(過去最高位15位) 3/1時点

2023年1月に行われたワールドカップ（インド・ブバネーシュワル/ルールケラ）に16年ぶりに出場。その後、スタッフ・選手間のミーティングを数多く実施しながら、今一度チーム編成の見直しからスタートした。核となるベテラン選手も招聘し、世界で戦えるチームへと変貌した。特にアジア競技大会（中国・杭州）では安定した試合を展開し決勝戦に進出。世界ランキング3位のインド相手に善戦するも残念ながら勝利には届かなかったが、銀メダル獲得は価値のあるものだった。

パリ2024オリンピック最終予選では、当初より課題であった決定力やPC攻守での改善が結果として現れず最終順位を7位となり、残念ながら東京2020オリンピックからの連続でのオリンピック出場は果たせなかった。

- **韓国遠征**(2023/7/4-7/12)
- **アジアチャンピオンズトロフィ**
(2023/8/3-12、インド・チェンナイ) 3位/6チーム
- **アジア競技大会**
(2023/9/24-10/6、中国・杭州) 2位/12チーム
- **パリオリンピック最終予選**
(2024/1/14-1/21、スペイン・バレンシア) 7位/8チーム



女子ハイパフォーマンス部

- ・ ランキング：10位
(過去最高 5位) 3/1時点

2022年12月のネーションズカップ（スペイン・バレンシア）以降は国際大会が少なく、国内での強化に留まっていたため、2023年6月に欧州遠征を敢行。強豪国との試合を重ねチーム強化を推進した。

アジア競技大会では、連覇を目指し予選リーグまでは地元中国を破るなど順調かと思われたが、準決勝で韓国に惜敗し最終4位の結果となった。2023年10～11月に開催されたアジアチャンピオンズトロフィー（インド・ランチャー）では準優勝を勝ち取った。

2024年1月のパリオリンピック最終予選（インド・ランチャー）では、準決勝アメリカ戦での悔しい敗戦の翌日に行われた地元インドとの3位決定戦を僅差で勝ち切り、見事6大会連続でのオリンピック出場権を獲得した。

- ・ **欧州遠征**（2023/6/3-7/2）
 - ・ **アジア競技大会**（2023/9/24-10/6、中国・杭州）4位/10チーム
 - ・ **アジアチャンピオンズトロフィー**
（2023/10/27-11/5、インド・ランチャー）2位/6チーム
 - ・ **韓国遠征**（2023/12/1-12/13）
 - ・ **パリオリンピック最終予選**
（2024/1/13-19、インド・ランチャー）3位/8チーム
- ★パリオリンピック出場権獲得**

アンダーカテゴリー強化育成部

- 本年度のアンダーカテゴリーの代表的なトピックスは女子U21のジュニアワールドカップ7位入賞である。コロナ禍で何度も大会中止や延期に見舞われながらも、地元岐阜で行われたアジア予選を突破。12月にチリで行われた本選では順位決定戦に進出。強豪国相手に善戦し日本のジュニアレベルの高さを世界にアピールできた
- 従来からの部活動を入り口としたパスウェイの充実化を図りつつ、タレント発掘やクラブチームとの連携など、新たなパスウェイによる国際競技力向上を模索する取り組みとしての「JHAエリートアカデミー」第二期を迎え、J-STAR開発実証データ選考・J-STAR5期生/第1期エリートアカデミーからのNFプログラム進出者・U15/1・2年にて活動を実施した。J-STARプロジェクトも継続した
- FTEMシステムの本格導入など、地に足を付けたアンダーカテゴリーの強化システムが機能し始め、成果として現れる状況が整ってきた
 - U15: 海外豪州遠征
 - U18: 日韓交流事業(男子招待、女子派遣)
 - U17女子ユース日本代表：「第1回NHOPミルナワンカップ2023/クアラルンプール」に参加（2位/6チーム）
 - U21: (男子) 「JWCアジア予選 2023/オマーン・サラール」 （5位/10チーム）
 - U21: (女子) 「JWCアジア予選 2023/岐阜各務原市」 （3位/10チーム）
 - U21: (女子) 「ジュニアワールドカップ 2023/チリ・サンティアゴ」 （7位/16チーム）
 - JHAエリートアカデミー：4回の集合適性検証合宿とオンライントレーニングと第3期選考会

◆指導者育成部

昨年度までは日本スポーツ協会のライセンス取得のためのサポート事業をメインとしてきたが、今年度は新たに上級指導者をめざすエリートコーチのためのACDキャンプをリモートで実施し、国内の優秀なコーチの意識付けを行った。来年度以降は更に進化させ、コーチのためのパスウェイを明確にし、日本代表チームで活躍できる指導者の教育にも力を注いでいきたい。

◆テクノロジー&ディベロップメント部

今年度は、現場により近く、機能する強化サポートセクションづくりを目指した。各担当者もできる限り実行部隊となるべく関係者にアサインを行った。来年度以降はより機能的な組織へのアップデートを目指す。その中でもFTEMの推進は代表チーム強化に直結するため、専門部署、専任者をアサインし、2024年度よりスタートを切る。

2023 Moments



事業本部

【総括】

- 2023年度日本協会が主催する大会及びブロック大会へ競技役員を派遣し、充実した競技運営と円滑な大会運営を行うことが出来た
- 「夢見るホッケー教室」を通じて、多くの子どもたちにホッケーの楽しさを伝えることが出来、U12育成Gにおいては、将来の日本代表を夢見る選手の心身の育成に繋がる活動が出来た
- 更に、国際大会の開催による東京2020オリンピックのレガシーの活用と、大会開催のノウハウ等の維持向上に努めた

◆競技運営部

R5年度活動内容	結果
1. 競技役員への派遣と充実した競技運営	1. 主催・共催する全国大会及びブロック大会へ競技役員を派遣し円滑に実施できた。また、国際大会へも派遣し十分に成果をあげた
2. 競技役員の育成	2. 各種研修会・講習会を開催し資質の向上・資格付与を行ったが十分とは言えなかった
3. 全国ルール統一研修会の開催	3. 全国のホッケー関係者に競技規則・運営規程等について共通の理解・解釈を図ることが出来た

◆ホッケーファミリー未来部

R5年度活動内容	結果
<ul style="list-style-type: none"> • 全国スポーツ少年団大会（2023/8/11-13）@大井ホッケー競技場 • U12ホッケードリームキャン（2023/12/2-3）@グリーンランドみずほホッケー場 • U12ホッケーオールスター戦（2024/3/2-3）@大井ホッケー競技場 • 夢見るホッケー教室：17会場（23回実施）参加者延べ2,667人 • YouTube「トミさんコーチング」配信（計22回） 	<ul style="list-style-type: none"> • 「夢見るホッケー教室」は、47都道府県すべてで開催することを目指して取り組みを進め、今年度は15都道府県で開催することが出来た • 「夢見るホッケー教室」では、今年度三井不動産、コカ・コーラと共同で大規模商業施設（ららぽーと福岡、ららぽーと豊洲）でのイベントを開催し、ホッケー未経験者にホッケーを知ってもらう良い機会となった • また、ENEOSと共同して託児スペースを併設し、小さな子どもを持つ保護者はもちろん、子どもを育てるインストラクターも参加しやすい環境を整えることができた • U12ドリームキャンプ及びU12ホッケーオールスター戦は、日本ユニセフ協会やアンチ・ドーピングインティグリティ委員会との連携を図るなど内容を充実させ、これからの日本代表を夢見る選手の心身の育成に繋がっている





◆イベントマネジメント部

R5年度活動内容	結果
<ul style="list-style-type: none"> 国際大会の開催による東京2020オリンピックレガシーの活用とノウハウ維持 インドアホッケー普及のための活動 	<ul style="list-style-type: none"> 各部、委員会、JHA事務局の協力の下、ホッケー日本代表国際強化マッチを開催し、地域との関係性をより強化させながら、大会開催ノウハウ等の維持向上に努めた 目標としていたインドアホッケー代表チーム初の国際大会参加となるマーシャルアーツ大会が再々延期となり、出場を断念

【実施イベント報告】

① ホッケー-日本代表国際強化マッチ (日本ホッケー協会設立100周年記念)

実施日: 2023年9月2、3日

場所: 大井ホッケー競技場

男子カナダ、女子フランスのカップ戦を東京2020大会のレガシーとしてスポーツ庁、東京都、品川区、大田区、カナダ大使館の後援を受けて開催。しながわホッケーファンゾーンの開催など、地域の協力と連携をより強化しての開催となった。2日間で約3100人の来場があり、その応援により、日本代表チームの健闘が光った。



コーポレート本部

【総括】

- 協会およびホッケーの社会的信用と存在価値を高め、協会運営およびW杯招致に向けた基盤づくりに貢献することを本部の方針として、2023年度の活動を行ってきた。
- メディアや海外要人との関係深化、ガバナンスの強化等、方針に則った、今後につながる組織基盤の構築を進めることができた。

	R5年度活動内容	結果
広報部	<ul style="list-style-type: none"> • JHA HP及びSNSの情報発信 • メディアからの取材対応 • 全日本選手権等でのメディアセンター運営 • 年次制作物の発刊 • アジア大会等への取材派遣 • 解説者育成事業の立ち上げ • パリオリンピック応援機運醸成イベントの実施 • 協会のPR動画制作 	<ul style="list-style-type: none"> • 迅速で正確な情報発信 • 解説者養成講座（入門コース、アドバンスドコース）の実施 • メディアとの関係強化、特にホッケータウン認定事業を通じたローカルメディアの露出の大幅増と、NHKおよび日テレとの関係を深化。 • 大会記録のアーカイブ
国際部	<ul style="list-style-type: none"> • 国際会議等対応 6月6日FIH理事会@スイス 7月7日OCA総会@タイ 8月10～12日AHF会議@インド 9月23日～10月6日@杭州アジア大会 10月19日FIH理事会@エジプト 10月27～28日AHF会議@インド 11月8～9日@マレーシアJr.W杯 1月12日FIHイクラム会長来日対応 1月26～27日NFサミット@オマーン • JOC主催の国際人養成アカデミーをJHA関係者3名が受講 	<ul style="list-style-type: none"> • FIH、AHF主催の理事会をはじめとした諸会議やアジア大会、Jr.ワールドカップ等の国際大会開催地において、FIH、AHF幹部との接触を積極的に図り、関係性の維持向上に務めた • OCA総会に出席しJOC関係者、アジアNOC関係者との関係を構築した • JOC主催の国際人養成アカデミーを3名が受講し全員修了
法務・コンプライアンス推進部	<ul style="list-style-type: none"> • 役員対象コンプライアンス研修の実施（5月） • 加盟団体規程の新設（5月） • コンプライアンス委員会開催（計6回） 	<ul style="list-style-type: none"> • コンプライアンス研修実施による法令等遵守意識の醸成



常設委員会

◆AD・インテグリティ委員会

R5年度活動内容	結果
<ul style="list-style-type: none"> アンチドーピング・インテグリティ委員会の基盤整備と活動の充実 JADA及びFIHとの連携の下でドーピング検査への協力ならびに結果管理の充実 JOCとの連携の下でインテグリティ教育活動の充実・管理 JADAとの連携の下でアンチ・ドーピング業務連絡、教育活動、RTP居場所情報管理の徹底（検査未了ゼロ）、検査プールの管理、教育の充実、競技会検査の準備、禁止表・TUE等の医事 	<ul style="list-style-type: none"> JHAアンチドーピング規程制定・施行ならびにアンチドーピング・インテグリティ委員会規程の改訂、委員会会議2回開催 国内競技会でのドーピング検査の準備および違反事案の結果管理のJADA/FIHとの連携 全国ルール研修会で多様なインテグリティ教育講演の実施 教育活動を担う承認Educator2名のJADAからの承認、カテゴリー別の多様な教材を組み合わせた教育活動、RTP検査未了ゼロ、承認Educatorによる対面教育実施3回、競技会検査の準備手配、禁止表・TUEの周知、スポーツ医科学学会発表

◆社会共創委員会

R5年度活動内容	結果
<ul style="list-style-type: none"> ◆日本ホッケー協会100周年記念事業「ホッケータウン、パーソン、チーム認定」 ◆2023しながわホッケー地域応援プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> *委員会の開催（7回） *国際強化マッチの際の協力 	<ul style="list-style-type: none"> 100周年記念事業として全国からホッケータウン、パーソン、チームの申請等をいただき、理事会で最終審査のうえ決定 全国19か所をホッケータウン認定し、認定式は理事全体を巻き込み各地に訪問し開催 「ホッケー」をキーワードにALL品川として連携（品川区、自治会、企業等）

◆アスリート委員会

R5年度活動内容	結果
<ul style="list-style-type: none"> アスリート委員会実施（7回） 代表応援動画作成 スポ少大会、マスターズ支援 LGBTQセミナー実施（3月20日開催予定） 	<ul style="list-style-type: none"> 幹部3名 AD3名 委員10名参加 各カテゴリーが感じる意見を集約の上、ロングリスト作成し、未来へ向け発展的な協議を行ってきた

◆コンプライアンス委員会

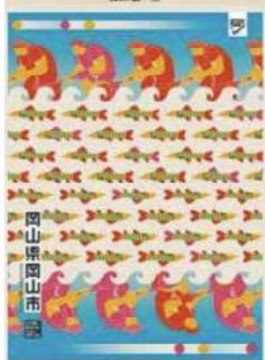
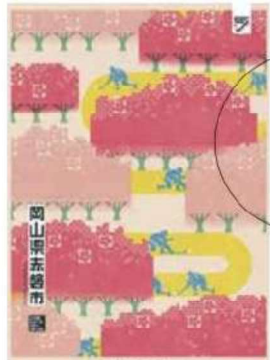
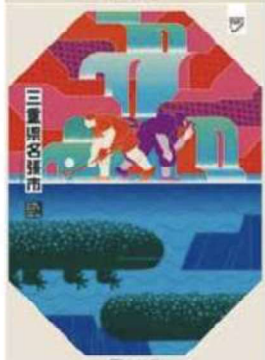
R5年度活動内容	結果
<ul style="list-style-type: none"> 開催実績4回 	<ul style="list-style-type: none"> 臨時委員会を4回開催。論議事項、内容について理事会に報告（過去の赤字イベント問題の経緯と原因の精査）





**OFFICIAL
HOCKEY
TOWN**
Approved by JHA

公益社団法人
日本ホッケー協会 100th Anniversary





事務局

R5年度活動内容

- 定型業務
 - 協会運営総務・庶務、文書管理
 - 理事会/業務執行理事会運営
 - 登録・データベース管理
 - ステークホルダーとの対応
(スポーツ庁、JOC、JSPQ、JSC等)
 - ガバナンスコード対応
 - 広報・メディア対応
 - 国際機関対応
 - 加盟団体・地域自治体連携対応
- 事業/イベント企画立案・実行支援
- 法務・コンプライアンス事案処理対応
- 社会貢献活動対応
- 本部・委員会の支援

結果

- 定型業務
 - 確実な財務経理処理を遂行した。また昨年導入したクラウド会計システムを活用した会計処理の効率・処理スピードの改善に努めた
 - 12回の理事会、および定期的な業務執行理事会・情報交換会の運営を行った
 - 確実なチーム・競技役員登録事務の遂行と入金管理を行った。システムの使い勝手の改善に努めた
 - GC自己説明を確実に実施した。併せて各種規程の見直し改訂を進めた
- JHA主催の各種大会・事業の開催サポートを行った。また、国際強化マッチを中心としたイベント企画・実行支援を行った
- メディア露出の機会増加に向けた施策の実施、および、Webサイト・SNSなどによるタイムリーな情報提供を行った
- 各カテゴリーの海外遠征に際して渡航手配・事後サポート・保険対応を確実に実施した

CONTACT

公益社団法人 日本ホッケー協会
〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square
TEL: 03-6812-9200
FAX: 03-6812-9210

